

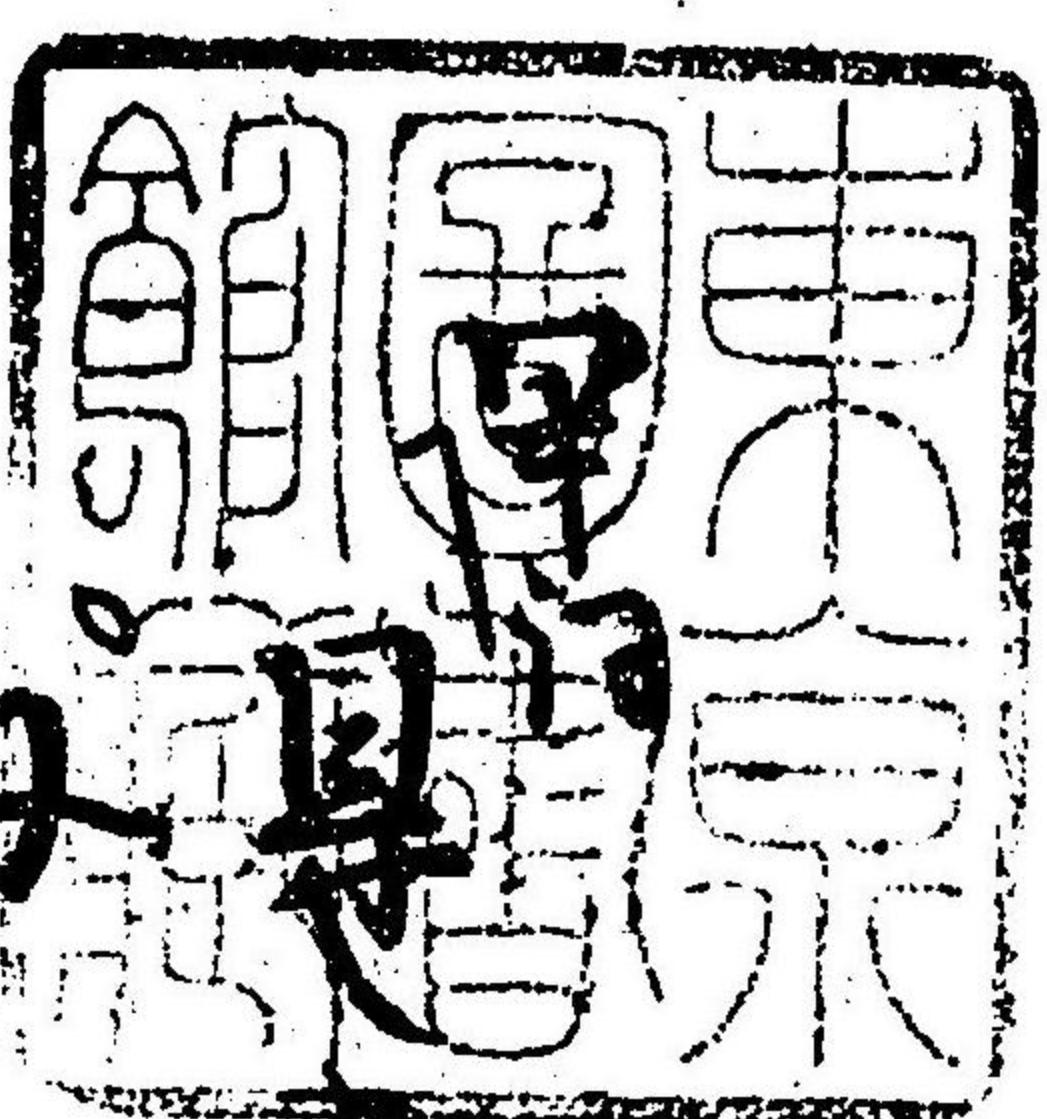
特42

469

舊約全書

22.

東京圖書館						
三 二 冊	三 號	四 七	和 書 門	音 樂 類		
	架	函				



富士大敷

身
ノ
森
院
住
人
也
大
敷
内
裏
年
月
日
登
詔
の
所
申
樂
人
是
へ
あ
れ
た
て
手
あ
り
と
て
立
て
大
敷
の
役
住
人
也
又
住
者
大
敷
の
役
住
人
也

ぬ大歎かと手をもひて管絃の伎と
うるまくしては此曲やがむかふ士洋

四門をわ面白れら若也。まある古也。
事よがのちにま向の懸けゆく
とくにたる雲の煙のゆきあふと
はすかかくかくかくかくかくかく
がくかくかくかくかくかくかくかく

勤定寺の事と重て富士御者
色あじよがゆきまにゆき
わから振舞うゆきは宣
よをああ重きゆきはめ
便へひ事きとてひきゆき
あひゆきひ事き。まよめ
形見とてひ事き。まよめ

ちと遅かうと軍から戻と申し
是（事）の因に吉樂（よしゆき）
人の書が出來りおもて裏は七月
の晩結（まわらわ）めどりあり
連人（れんじん）をも思ひてかう角
太鼓（おとこ）の後世（ごしき）ある事（こと）の如（ごとく）
山（さん）真た（ま）る都（とよし）大（だい）氣（き）

夢（ゆめ）が日（ひ）と雨（あめ）
源（みなもと）と多（おお）きなだれ（なだれ）
上善（じょうぜん）
タネ（種）（たね）あるよ風（かぜ）の雪（ゆき）
や（や）あ（あ）古（い）朝（さう）
あ（あ）あ（あ）い（い）住（す）む木（き）
あ（あ）り（り）詠（よ）く（く）月（つき）高（たか）城（じょう）
あ（あ）あ（あ）う（う）き（き）の（の）山（さん）の（の）情（じょう）よ（よ）う
掛（か）手（て）の（の）し（し）と（と）夢（ゆめ）あ（あ）

おれとおのれの心をかねておもひ親
の歎え 許すにまつし 童

うなづき事わざうわざうわざ
あらは男の心を抱く事あるわ

鳥甲

根の下に書いた

若よ

うつむけたる心を抱く事あるわ

立て

おのれの心を抱く事あるわ

と責められぬるも音も

上善」の心へ腰を下さ

よ

うつむけたる心を抱く事あるわ

おのれの心を抱く事あるわ

うつむけたる心を抱く事あるわ

とくに

眞善の精神を抱く事あるわ

身のまへ人間の心を

うつむけたる心を抱く事あるわ

れりへして絶えぬ事にてかう。物の様に

方へたるを教へておき。おまへと手を

ひく。おもては餘人のかまへて大敵入也。

ひく。おまへと手を教へておき。おまへと手を

ひく。おもては餘人のかまへて大敵入也。

ひく。おまへと手を教へておき。おまへと手を

ひく。おまへと手を教へておき。おまへと手を

ひく。おまへと手を教へておき。おまへと手を

ひく。おまへと手を教へておき。おまへと手を

ひく。おまへと手を教へておき。おまへと手を

ひく。おまへと手を教へておき。おまへと手を

ひく。おまへと手を教へておき。おまへと手を

はんせんとくさくはん
すきやくあつまつ
是成や人間の
身やうちも
と修人海鳥と
がゆめたれを
我心でたれ蓋てに
腰かと思ひ
馬とまとまとまと
まとまとまとまと
人形かよきとだ直
人形かよきとだ直
里きの跡足真氣をうるおれ

右之本者觀世太夫織部
章句眞本令放行畢

正徳六丙申歳林生

天保十一庚子歲孟春改正再版

皇都二条通御幸町西江入町

山本長兵衛



明治十六年九月廿四日翻刻御届
同 年十月 刺成發兌

京都府平民

翻刻人 本田市次郎

素裏第三組上古山七番戸

定價金七錢

京都專賣書林

北村 善兵衛
風月 庄左衛門
石田 忠兵衛
町田 與三吉
佐多 總四郎
細川 清助

村上 勘兵衛
辻 本 定次郎
須磨 勘兵衛
遠藤 平左衛門
大谷 仁兵衛
杉 本 甚 助

菱澤 重兵衛
内藤 彦一
川勝 德次郎
今井 七良兵衛
藤井 浅次郎
近藤 太十郎
澤田 友五郎
西村 七兵衛
西村 袞右衛門
永田 調兵衛

